

# 和光市国際化推進懇話会第7回会議

## 会議要録

- 日 時 平成23年12月 1日（木）午後1時30分から3時30分
- 会 場 和光市役所5階 502会議室
- 出席者 田中明会長、高富暁子副会長、近長武治、伊藤弘嗣、竹腰満、田中茂穂、溝部絢子（敬称略）
- 傍聴者 なし
- 事務局 人権文化課長 河野、人権文化課主幹 寄口、文化国際担当統括主査 渡辺、同担当主事補 市川

1 あいさつ 和光市国際化推進懇話会 田中明会長

## 2 議題

### (1) 最終報告案について

事務局：資料1、資料2「最終報告案」について説明。

田中会長：事務局から説明があったが、質問や意見はあるか。文書の構成的なような意見でも構わない。

事務局：近長委員の修正意見の資料を配布する。

竹腰委員：資料2最終報告案の2ページ、上から5行目の、「緊急時における外国人支援体制の整備」について、市から意見を求められた…」と記述してあるが、意見を求められた認識がない。また、第二次和光市国際化推進計画の中にある基本方針3つと、今回の最終報告案の中身の整合性が取れていないと思う。

近長委員：この報告書について、二つのことを申し上げたい。まず第1には、この最終報告書案では、今年度3回議論したことで欠落している事項がある。そこで、配布資料のとおり、次の2点を追加していただきたい。その第1点は、和光市の有する人材を有効に活用して、特色ある多文化理解教育を推進することで、第2点は次年度以降も、随時、懇話会を開催し、国際化推進計画の実効性を確保するようにしてもらいたい。第2には、この報告書の本文では、災害対策の記述が大部分を占め、これがこの懇話会の主要部分という印象になってしまう。確かに本年度は、緊急災害対策の議論がほとんどであった。どうしても本文の大部分を災害対策に充てるというならば、最終報告という名称ではなく、平成23年度報告という名称に変更すればよいのではないか。あるいは、緊急災害対策については、主要な内容を本文として、この最終報告書案のような詳細な内容は、別紙にすれば、全体としてバランスがとれ、非常に分かりやすくなると思う。

田中委員：1つの議題として書いたのではないか。これだけしか議題がなかった訳ではない。この最終報告案を全てとして出すのか。

近長委員：最終報告というのは、これにより中間報告の内容が変更されたということになり、市の国際化推進計画も変更することになるのか。

事務局：2年任期の懇話会で、2年目は計画の施策についてということだったが、大震災が起きたために、緊急時における外国人支援体制の整備を取り上げることとなった。懇話会は市に対する提言をもらうということで、少ない懇話会会議の中で、この狭い範囲の中で意見をもらうことになった。計画の中に入れるという話ではない。

近長委員：範囲のことを言っているわけではない。今回の報告案は、非常にバランスが悪い。災害対策の詳細は別紙にして、本文では、主要なことを簡潔に記述することにすればよいのではないか。

事務局：懇話会のスタンスとしては事務局が出した案について委員から意見をもらうということである。この最終報告案を基に、表現の方法などを委員の皆様で話し合っていたきたい。

近長委員：別紙にした方が行政サイドとしては取り扱いしやすいのではないか。

事務局：別紙にした方がよいということも委員の中で話し合っていて欲しい。今年度初めの会議で、本来であれば計画全体について意見をもらう予定であったが、震災が起きたためこのテーマにしたことを伝えた。

近長委員：実際には、10年間の推進計画と、今回の緊急災害対策は視点が違うように思う。そのことを報告書の体裁でも明確にしておけばいい。前回の中間報告は、国際化推進計画という、まとまった形で提言しているので、今回も外国人の災害対策としてまとまったもので提言したほうがいいのではないか。そのためには、別紙がよい。

事務局：そのことを委員の皆様で話し合っていて欲しい。

竹腰委員：諮問の答申がごちゃごちゃになっている。第二次和光市国際化推進計画の策定、緊急時における外国人支援体制の整備を各々答申すればよいのではないか。この諮問がどういう形で懇話会にきているのかわからない。確認したいが、外国人支援体制の整備については懇話会だけに意見を求められているのか。他の部署との整合性はとれているのか。

田中会長：懇話会というのは、委員の皆様から様々な意見をもらう、一つの懇談会と認識している。この部分についてはこのような意見ですという答申でいいのではないか。国際化を推進するための提案であればいいと思う。行政がどれだけ国際化に邁進していけるかというきっかけを作るのが私達であると思っている。

事務局：懇話会に対しては諮問という形ではない。

近長委員：災害対策については別紙として出すのかどうか、また、今回の報告書は最終報告という名称がいいのか、この二点について意見を聞きたい。

田中委員：最終報告というのは二年間やってきたことはこのようなことでしたと報告するということである。今回の緊急の課題として災害対策の話をしてきたので、この話しかやっていない以上、報告書に盛って書くことはできない。ただこの報告書については、1の第二次和光市国際化推進計画の策定についての部分はうまくまとまっているが、2の第二次和光市国際化推進計画に基づく市の国際化推進施策についての部分は、意見が重複していて、まとまっていない。近長委員のおっしゃっているような後につないでいくような施策の意見をもう少し書けばよいと思う。

溝部委員：第一次和光市国際化推進計画を策定したときには、同じように、中間報告を出して最終報告を出したのか。その時も、中間報告が計画の策定で、最終報告が施策について話し合った意見を提出したのか。

事務局：5年間に計画の見直しをいった際には、見直しを行った時期を行ったのが2年目だったため、最終報告は見直し案を提出した。

溝部委員：最終報告というものは中間報告を全て含んだものだと思う。この報告書では、中間報告について触れていないのでバランス的におかしい。私の提案としては、1として中間報告つまり計画の策定について述べ、2として計画の施策について述べ（今回の報告書で「緊急時」の5つの内容を掲げたところまで）、それから、話し合った時間は短いですが施策について出た他の意見についても書くべきだと思う。その後で、補注でも別紙でもいいが、施策の中の「緊急時における外国人支援体制の整備について」の詳しい提言内容について、もっと簡潔な形に書き直して付加し、全体の体裁をまとめるといいと思う。

田中会長：伊藤委員は何か意見あるか。

伊藤委員：事務局に確認したい。一番は国際化推進の大綱を見直したということでもいいか。大綱が大きく変わらないのであれば、震災があつて、課題が見えてきたので、今年度は要点をしばって対策をしたということを記述すればいいのではないか。

事務局：基本計画イコール大綱ということ認識でいいか。二年間の結果として、計画と課題となった災害対策を重点的に議論したということを書けばいいか。

伊藤委員：そのように思う。

近長委員：一番肝心なのは、最終報告ならば、最終報告らしい体裁にならないといけない。災害対策をまとめて別紙にし、溝部委員の意見のように、計画の提言、計画推進への提言、災害対策といった体裁となるような報告書がいいと思う。

田中委員：市長が求める懇話会の報告書の体裁によって書き方はかわる。自分たち委員の発言した意見が入っていれば構わない。

田中会長：最終報告には、皆様の意見を入れて、重点的に話した災害対策については別紙のような形でまとめればよいと思う。

竹腰委員：この災害対策に関して、どのように市から提言依頼がきたかによって回答方法が変

わる。はっきりしていない。

田中会長：懇話会の位置づけとしては、提言の依頼をされる、それに対して報告をするというゆるやかな感じである。

事務局：今年度の一番初めに、平成23年度は第二次和光市国際化推進計画の施策の中で「緊急時における外国人支援体制の整備」という議題を取り上げ、現状の課題を審議して欲しいと依頼した。

田中会長：最終報告書には中間報告、委員の皆様の意見を盛り込み、その中で、平成23年度の災害対策は別紙報告する形ではどうか。

近長委員：今、会長がおっしゃったことを整理すると、1つ目は市長に中間報告で提出した内容、つまり国際化推進計画について提言したということ、2つ目は今年度災害対策について別紙のとおり提言したということ、3つ目は計画の実施状況について委員の間で意見交換したという、この3つが大きな項目になると思う。このような認識でよいか。

田中会長：その認識でよい。

近長委員：議事進行についての提案をするが、年明けもう一度最終報告案の確認会議を開いてはどうか。

田中会長：最終報告案は先ほどのような委員の意見の形でお願いしたい。また、最終報告は1月中旬予定であったが、近長委員の意見のとおり、最終報告案の確認をするための会議を開いてはどうか。事務局の意見はどうか。

事務局：今回いただいた意見に基づいて報告書案を修正し、次回会議に示す形で構わないか。会議を開くのであれば1月中旬以降であれば可能である。

田中委員：事務局が完璧な最終報告案を作成するのであれば、メールでも構わない。

田中会長：会議を開催する場合は市長に報告する10日前～2週間前までには集まりたいと思う。

事務局：時期は1月下旬頃でお願いしたい。日程は別途調整し連絡することにする。

田中委員：今回話し合った災害時対策については今までやろうとしていたこととは違うということではない。外国人の方に自立して欲しいという考えがあるので、外国人の人たちには自立してくださいということにウェイトを置いて書いて欲しい。外国人の人たちが何を拠り所にして災害時をくぐり抜ければいいのかということを考える視点があればいいと思った。

近長委員：平常時が大事だということをメインの軸として考えていくといい。

田中委員：自立という言葉を使うと厳しいが心構えをしておいて欲しいということである。

伊藤委員：今までの意見を事務局にまとめていただいて、それをメールでいただき再度修正案を提示するような形でどうか。もし、もう一度会議が必要であれば行えばよいと思う。

近長委員：それはもう一度会議を開催しないということか。

田中委員：事務局が完璧なものを作成すれば集まっても5分で済んでしまう。メールで済んでしまうようなものを期待している。

田中会長：何も意見がないようであれば会議の必要はないかと思う。ここで、次第（2）その他の意見をいただきたい。

事務局：近長委員から事前に提出された意見を配布する。

近長委員：和光市には理研があるので、その人材を活用すべきである。先日、市民まつりで、理研のスヴェトラーナさんという方がブルガリアの民族衣装を着て文化紹介をしていたが、大変評判がよかった。こういうことを小中学校の国際教育や公民館の生涯教育の場にも広げてはどうか。人権文化課でコーディネートして、担当課で実施してもらうようにすれば、既定の予算の活用により対応できると思う。

溝部委員：この第二次国際化推進計画で、一番の目標に掲げられたのが、外国人にも暮らしやすい街づくりということで、これはこの懇話会の成果だと思っている。その実現化の一環として、普段から気軽に相談に行ける外国人窓口の充実があるが、施策として対応する部署には人権文化課、市民相談室、その他関係課とあるが、今はどのような状況なのか。

事務局：外国人が気軽に相談できる総合的な窓口は今現在ない。人権文化課が対応している。ただ、外国人相談体制の整備を行っていく上では、市民相談室と一緒に検討していきたいと考えている。

溝部委員：日本語があまり話せない外国人が来た場合の体制は整っていないのか。

事務局：今現在だとその体制が不十分であり、そのような場合は、外国語が話せる人権文化課職員が対応している。ただ、人権文化課以外にも外国語の話せる職員がいるので、必要がある場合には所属長の許可をもらい職員の派遣できるような体制を考えている。

溝部委員：多文化共生ボランティアについてはこういう窓口の通訳は行わないのか。

事務局：多分化共生ボランティアについては保健センターにおける通訳や、市の文書の翻訳を担っている。

溝部委員：平時の間に外国人相談窓口がもっと整備されるといいと思う。また個人的には災害時通訳ボランティアに応募したし、もし「やさしい日本語」の手直しワーキンググループができれば是非参加したいと思っている。また、近長委員の提言のように、今後この推進計画の実施状況を調査、検討する機会が設けられれば参加して、自分たちの意見が施策にどう反映されるか見届けたいと考えている。

高富副会長：埼玉県の多文化キーパーソンに登録しているが、県から定期的にセミナーなどのお知らせがある。また県には外国人が電話で相談できる窓口がある。市でそのような県の施設の情報を流せばいいと思う。

竹腰委員：朝日新聞の記事で、わこう子育てネットワークの記事が掲載してあった。他にもふ

じみの国際交流会や川口の多文化協働センターなど様々な場所で皆さん活発に活動している。その中で人権文化課の存在価値を高め、市の事業もPRして頑張ってもらいたいと思う。

近長委員：報告は印刷物で終わりではなくて、次に具体的な施策としてステップ踏み出さないといけない。まず行政から足を踏み出さなければならない。一例として、先ほど提案したが、多文化理解教育として理研の方などいろいろな国の人の協力を得て、母国のことを話してもらうような場を小中学校や公民館のような公的施設から始めて欲しい。

事務局：他と協力を仰ぎながら、今後の参考とさせていただく。

田中会長：今回の懇話会は終わりであるが、平成24年度からはどのように考えているか。

事務局：審議会と違い常設ではない。ただ、計画の見直しなど必要に応じて意見をいただきたいと思っている。

田中会長：計画の見直しの時期が来る前に、もし懇談会のような計画の状況や意見を言える機会があればと考える。

事務局：次回以降は今のところ白紙となっている。市長の考えによるものなのでご了承いただきたい。

田中会長：これをもちまして議長の職を解かせていただく。

事務局：以上をもちまして和光市国際化推進懇話会第7回会議を終了する。報告書案については事務局で精査しメールで送付させていただく。本日はありがとうございました。